

笠間焼蘭鉢の商品化支援

【開発の背景】



図 1 商品化打合せ風景

産地内での笠間粘土の利用に関して企業訪問をしていたところ、昭和 30 年代に当所が試作開発した蘭鉢（「茨城の窯業史」昭和 56 年、窯業指導所編、77 頁に記載）が未だ製造販売されていることが分かり、品質向上のための技術支援及び褒賞制度への申請支援をしたところ、“いばらきデザインセレクション 2012” 知事選定となりました。

【開発の経緯・支援内容】

1) 蘭販売店からの聞き取り調査

「品評会では鉢の美観は対象外」、「価格面でプラスチック製鉢が 90%以上」と課題はあるものの、「笠間鉢は先代が扱っていた。突出した機能があると市場が見込める」と、可能性があることが分かりました。

2) 焼成試験

1200～1300℃での吸水率を測定したところ、1200℃で 5.0%，1220℃で 3.8%（図 2 の赤線枠内）が適しているであろうと推測しました。

3) 蘭愛好家のモニター調査

鉢の「吸水性は良い」が、「根腐れ防止のサナが最も重要」であることが分かりました。

4) 当所からの提案

- ・サナの改良：穴形状に屋号や社章を応用するといった蘭愛好家を刺激するアイデア。
- ・褒賞制度への申請：笠間焼蘭鉢の歴史や背景、焼成温度や吸水率等の技術情報、これらプレゼンテーションに関すること。

実地試験：笠間焼成		乾燥収縮率 (%)		28	1023.11
焼成温度 (℃)	試験片	焼成収縮率 (%)	全収縮率 (%)	吸水率 (%)	曲げ強度 (MPa)
1200		6.1	13.4	5.0	31.8
1220		6.4	13.7	3.8	34.5
1240		6.3	13.6	0.9	35.2
1260		6.3	13.6	0.3	38.0
1280		5.7	13.1	0.2	36.4
1300		5.4	12.8	6.9	28.4

図 2 焼成試験結果

【開発した製品の紹介】



図 3 店舗での販売風景

いばらきデザインセレクションでは、「ロクロ成形技術」や「吸水性の向上」、「サナのデザイン配慮」に対しての評価が高く、知事選定となりました。

今後も、品質や機能、デザイン性向上等に関して当所設備を大いに利用していただき、五代目・奥田真氏（当所研修・H14 修了）の若い感性によるものづくりと産地リーダーシップが期待されます。

○価 格：（大）2,415 円，（中）1,890 円，（小）1,260 円，（極小）840 円（税込み）

○販売先：有限会社山源奥田製陶所店舗

基礎となった事業

平成 24 年度 試験研究指導費（標準）

現在の担当部門

工芸技術部門

部 門 長

佐藤 茂

TEL:0296-72-0316

嘱 託

佐藤 剛

材料技術部門

主 任

吉田 博和